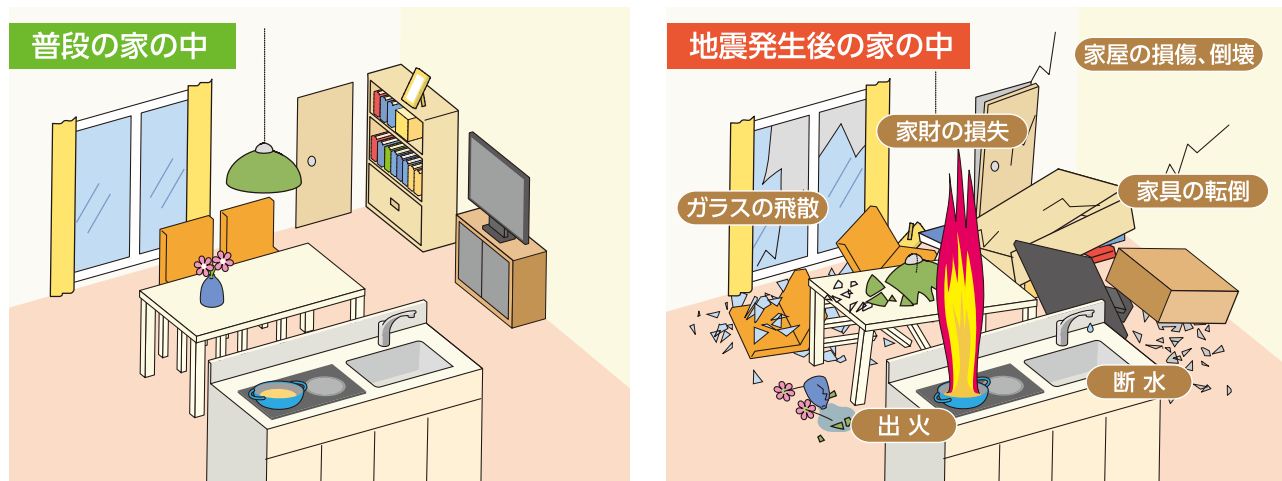


地震災害が起こったら



どの程度の揺れでどのような被害が発生するの？

地震の揺れは、震度で表現されることが多いです。この震度と被害は一般的に以下のような関係にあると言われています。

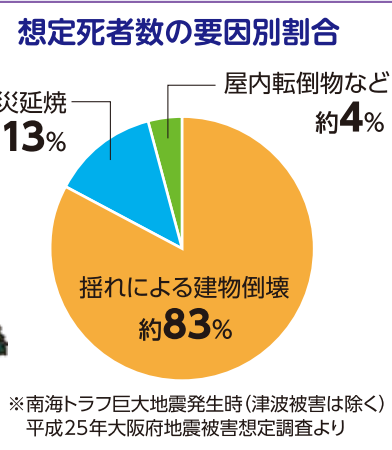
地震の揺れと被害想定	
<p>震度 4</p> <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの人が驚く。 棚にある食器などは音をたて、置物が倒れる。 	<p>震度 6弱</p> <ul style="list-style-type: none"> 立っていることが難しい。 耐久性の低い木造建物には倒壊や損壊するものがでてくる。
<p>震度 5弱</p> <ul style="list-style-type: none"> 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 食器類が落ちる。 	<p>震度 6強</p> <ul style="list-style-type: none"> はわないと動くことができない。 耐久性の低い建物では倒壊するものが多い。
<p>震度 5強</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩くことが難しい。固定されていない家具が倒れたり補強されていないブロック塀が崩れることがある。 	<p>震度 7</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐久性の高い建物でもまれに傾くことがあり、耐久性の低い鉄筋コンクリート造の建物では倒れるものが増える。

建物や、家具が凶器になる!?

地震が発生すると、強い揺れによって、建物自体が倒壊するおそれがあります。また、建物が無事でも、家の中のダンス・本棚などの家具が転倒したり、照明器具が落下するなどによって、大きな怪我をするおそれがあります。

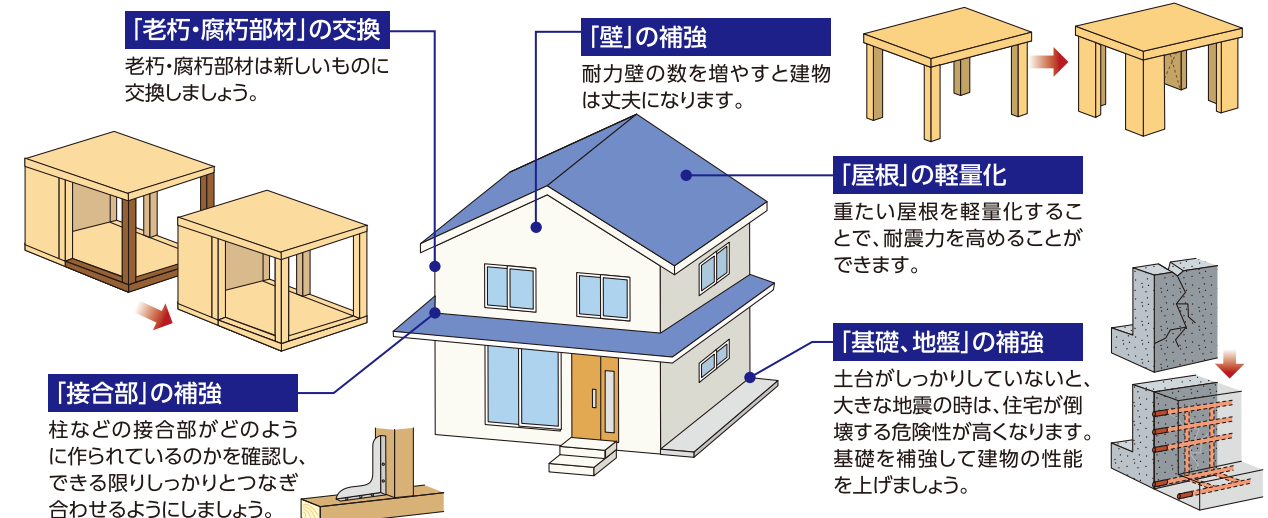
地震によって発生する死者数を要因別にみると、その大部分が建物内で発生することが想定されています。

建物倒壊と家具の転倒などが人的被害を受ける主な要因なんだよ。家の中を安全な空間にすることが重要だよ。



家屋の耐震化

地震災害から命を守るためには、「建物を強くする」ことがとても重要です。建物を強くする方法として家屋の耐震化が有効な対策です。



耐震に関する補助があります 着手(契約)後の申込みは受付できません。各種要件を満たす必要がありますので、必ず事前にご相談ください。

既存木造住宅※耐震改修補助
補助額▶最大 100万円

■対象

- 耐震設計
住宅を耐震補強するための計画を作成すること
- 耐震改修
住宅を耐震補強する工事を行うこと
- 耐震シェルター設置
耐震シェルターを設置する工事を行うこと

既存民間建築物※耐震診断補助
補助額▶耐震診断費用の一部

■対象

- 木造住宅
長屋、併用住宅、共同住宅を含む
- 非木造住宅
専用住宅、併用住宅、長屋住宅、共同住宅
- 特定既存耐震不適格建築物

※昭和56年5月31日以前に建築主事の確認を受けて建築されたもの。

くわしい内容などのお問い合わせ・ご相談については 都市政策課 ☎072-872-2181

家具の固定と配置の見直し

～安全な空間を確保する家庭でできる地震対策3つのポイント～

地震が発生したら、あなたの身の回りの物が危険物となります。このような危険物から身を守るためには、家具を固定したり、家具の配置に気を配ることが大切です。

